

平成28年度学生と学長との懇談会
 本学に対する大学院生からの意見・質問への回答

1 大学院教育（研究、カリキュラム・授業内容等）について		回答
1 総合科学教育部	研究過程において英語の文献を読むことがあるため、英語にまつわる技能向上を目的とした授業を増やしてほしい。	大学院教育のグローバル化は重要な課題であり、来年度以降、現行カリキュラムの点検をふまえ、英語による授業（文献講読を含む）を拡充する方向で教育部教務・入試委員会で検討してまいります。
2 総合科学教育部	プロジェクト研究Ⅰにおいて、留学生と日本人学生の割合を定めることによって負担を分散できるようにするべきではないだろうか。	現在は学生の希望調査の結果をもとにクラス分けを行っています。来年度のプロジェクト研究Ⅰの開講に先立ち、クラスにおける日本人と外国人留学生の人数バランスのあり方について、教育部教務・入試委員会で検討させていただきます。
3 医科学教育部・栄養生学部・科学教育部・口腔科学教育部	大学院教育セミナーの情報提供がばらばらなので、広報のあり方を考えて欲しい。1ヶ所で集約し情報提供したものがあれば有り難い。E-learningの授業は、5～6年前のものがあるので、2年に1回くらい更新して新しいものにして欲しい。今年から研究室毎で夏期に研究の中間発表が条件となっている。発表会の広報を充分やって頂ければ、知らない分野からも発表会に参加できて交流が図られると思う。免疫系は、セミナー、リトリートで発表させてもらう機会が多い。特に口腔科学だけでなく他分野との知識を共有することが出来たのが自分のためになった。	大学院教育セミナーの情報提供については、院生の専攻分野だけでなく他の専攻分野にも公開することを検討しています。自分の研究内容を皆の前で発表する場を作ることを大学として推進します。研究発表会の内容に興味があるものは、聞きに行くが、研究内容が違うので自由参加にすると負担の割に参加者が少ない。例えば、毎週、同じところで実施するなど工夫すると負担が軽減出来ます。蔵本キャンパスでは、医・歯・薬大学院生が参加した教育クラスターを作り、活発に発表会が行われています。また、昨年医・歯・薬大学院の小豆島リトリートでは、工学系も参加され全学的に他分野の学生が集い合って発表及び交流しています。
4 口腔科学教育部	私が所属している口腔分子病態学分野では、研究に関して自主性が尊重されており、実験の計画・実施、解析に至るまで自分のペースで行うことができ、更に指導をしてくださる先生といつでもディスカッションできる環境にある。私には小さい子供がおり、子育てをしながらの大学院生活となるので、現在の研究環境には大変満足している。	研究室の研究環境は教員だけではなく、大学院生も一緒になって作るものと考えております。積極的な関与を期待しております。
5 口腔科学教育部	E-learningで受講できる共通科目が多いことは時間の融通が効くという点ではありがたいことだが、もう少し対面授業を増やし、学生の積極的な参加を募ってみてもよいのではないかと思います。	様々なニーズに応えられるように対応を考え、カリキュラムを考えていきたいと思っております。特に学生の能動的参加型授業として、中間発表等以外にも、積極的に検討し、採用していきたいと考えております。

平成28年度学生と学長との懇談会
本学に対する大学院生からの意見・質問への回答

1 大学院教育（研究、カリキュラム・授業内容等）について		回答
6 薬科学教育部	自分の研究に関係がない講義が多い。	薬科学教育部では、創薬・医療の専門知識を体系的に学習するとともに、それぞれの専門性を活かしながら組織の枠組みを超えた教育連携を行うことで、患者本位の全人的医療が実践できる医療人や優れた生命科学研究者を育成しています。薬科学教育部の教育目標の医薬品を通し国民の健康を守り健康を確保することに鑑み、医療系全領域にわたる教育・研究薬の専門家としての幅広い知識と技能を修得してください。
7 先端技術科学教育部	主体的に研究に取り組める環境が整っている点並びに学会等の対外発表の機会を十分に与えていただけた点が非常にありがたかった。また、大学院の授業は充実しており、カリキュラムについても大変満足している。但し、個人的には英語での授業もしくは技術英語に関する授業があれば是非受講してみたかった。	英語での授業、もしくは、技術英語に関する授業の必要性については、本教育部の教員の多くも認識しています。平成30年度に予定されている大学院改組に向けた議論で、大学院教養科目群として国際プログラムの導入等が検討されており、ご要望に多少なりともお応えできるものと考えております。